

# あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

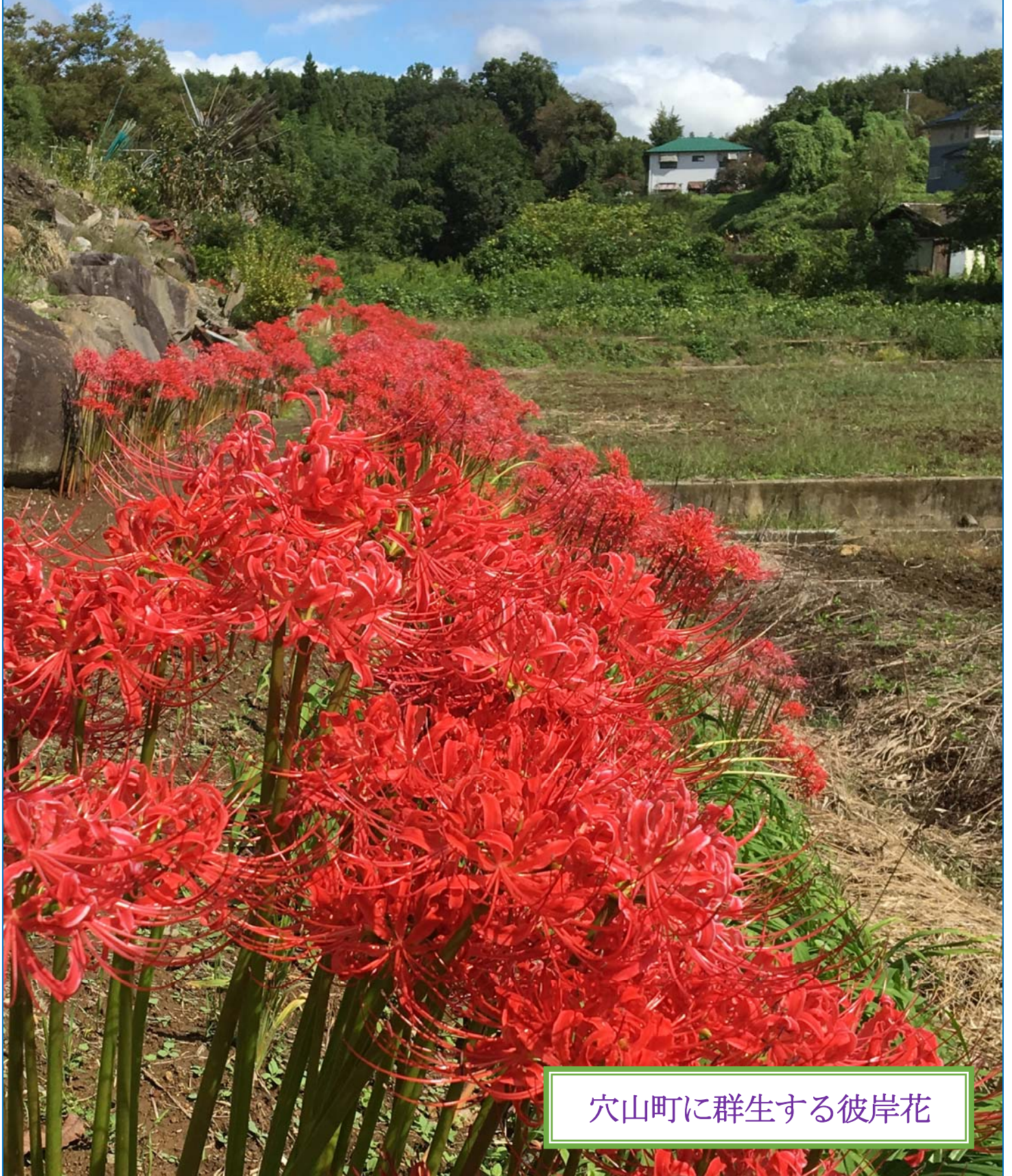
山梨県韮崎市穴山町 5164

TEL 0551-25-6100

FAX 0551-25-6103

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信



穴山町に群生する彼岸花



## 教育と社会福祉の連携の大切さ

社会福祉法人信和会 評議員  
山梨県立韮崎高等学校 校長

谷戸 高志



私は韮崎高校の校長として赴任し、信和会の評議員を仰せつかって3年目となりました。私はかつて韮崎高校に教諭として14年間勤務しました。この間、校舎が新築され、担任として卒業生を2回送り出しました。その後、管理職になり韮高を離れましたが、韮高に戻る前に、県立富士見支援学校の校長になりました。病弱虚弱および発達障害等に悩む児童生徒への教育を行う特別支援学校ですが、知的・肢体・盲ろう等の支援学校との繋がりも緊密であり、非常に良い勉強と経験をさせていただきました。

韮崎高校は、旧制韮崎中学として大正11年（1922年）の開校以来、「百折不撓」の校訓のもと、文武両道を目指し、活発な教育活動を展開してまいりました。教育方針に「人間を育てる」「一人二芸」を掲げ、伝統を守りつつ、時代に即した教育活動を取り入れ、人としての在り方、生き方を考えさせることが、自立した人間として、めまぐるしく変化する社会で生きるために必要な能力を育むことに繋がると信じております。卒業生は3万名を超え、国内外で幅広く活躍しています。その中で、大村智博士が平成27年にノーベル生理学・医学賞を受賞されました。在校生はこれを大いに誇りとし、科学的な探究心と社会に貢献する心を受け継いでいきたいと学業に励んでおります。昨年は同窓会により、校舎正面に博士の受賞記念モニュメントが設置され、生徒は日々、博士の偉業を胸に刻み向学心を新たにしています。現在、韮高は文科省から、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け7年目となりました。先輩達の課題研究の成果を受け継ぎ、地域連携を充実させ、韮高が地域の科学振興のHUB（ハブ、中核）となるべく、「スーパーサイエンス・ハブ・スクール」をめざしています。さて、韮高では総合的な学習の時間の中で、1年生は「社会に出て学ぼう」のテーマのもと、夏休みを利用し近隣の事業所に体験的な職場訪問をさせていただいています。穴山の里への訪問は、残念ながら台風の影響で実施できませんでしたが、わーく穴山の里への訪問は実施す

ることができました。当日は2名の生徒がお邪魔させていただきました。訪問後の生徒の感想文から抜粋してここに紹介いたします。

「実際に見てみると、職場には緊張感があり、利用者さんたちが黙々と仕事をしている。その姿を見て、障害があっても仕事への向き合い方は普通の職場と何も変わらないのだと思った。・・・一日の仕事の最後に、今日どれくらいの箱を作ったのか発表があった。目標の2800個より多い4200個の箱ができたそうだ。それを聞いた利用者さん達はとても喜んでいて、利用者さんは目標を持って仕事に取り組み、やりがいや楽しさを見つけているのだと思った。職員の方は、利用者さんの人生を預かった気持ちで責任を持って仕事をしているとおっしゃっていた。私が思っていたよりも、責任はとても大きいものなのだと感じた。」（栗澤日菜さん）

「私が一番学んだことは、周りをしっかり見て他人に気をつかうことの大切さです。・・・障害を持っていない人には簡単にできることでも、利用者さん達はとても苦労してなくてはなりません。しかし、そこにスタッフの方の気づかいが加わることで、利用者さんができなかったことをできるようにすることで、新しい世界が広がるのだと思いました。・・・『障害を持っている人のできないことを、できるようにすれば、その人の障害は障害ではなくなる』この言葉は事前学習で与えられ、お世話になった平賀さんにも同じことを言われました。これからの社会をつくっていく私たちのよい道しるべになってくれる言葉だと思いました。」（岸根晃さん）

生徒たちは訪問をとおして、社会や自己を見つめるとしても良い体験をさせていただいたと思います。あらためて、ご協力いただきました信和会、わーく穴山の里の職員の皆様に心から感謝いたします。

平成という時代がまもなく終わり、新しい時代が始まろうとしていますが、これからもこの峡北地域において穴山が高度な社会福祉の一大拠点となりますよう、信和会の益々のご発展と職員の皆様のご活躍をお祈りいたします。

# 本部だより

社会福祉法人 信和会 法人本部  
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390  
TEL0551-25-6100  
E-mail: [honbu@sip-shinwakai.jp](mailto:honbu@sip-shinwakai.jp)



## ☆ 研修会 報告 ☆

### ★三年目フォローアップ研修会

2016年4月に採用致しました職員に対するフォローアップ研修会を実施致しました。

三年目を迎え仕事の大半が理解でき業務に従事していますが、後輩への指導力や各自の更なるスキルアップも望まれる時期です。



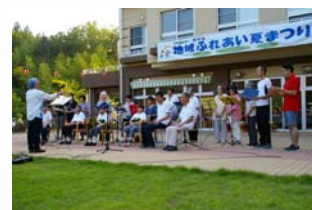
### ★第二回リーダー研修会

第二回目のリーダー研修会を開催致しました。

今回は「目標に対する取り組みと評価」について研修を行いました。昨年度取り入れた人事評価制度に対する評価手法や問題点の発掘と解決方法などを中心に積極的な意見交換が行われました。



## 第33回地域ふれあい夏まつり



平成30年8月5日、恒例の地域ふれあい夏まつりが盛大に開催されました。今年も利用者や利用者家族の皆様、町内外から総勢700名の参加者があり、練習を重ねた各施設の催し物を披露致しました。今年には韮崎ハイビスカス様、宇城様、ALLWAYS様の三組にゲスト出演して頂きお祭りを盛り上げて頂きました。お祭りのフィナーレは間近で打ち上がる花火です。今回は初の試みとして、花火と一緒に聞きたい曲アンケートをとり花火師さんのご協力でも光と音のコラボレーションも実現しました。平成最後のお祭りを締めくくる印象的な花火となりました。開催にあたりご協力頂きました皆様、ご参加頂きました皆様に御礼申し上げます。

# 穴山の里

障害者支援施設 穴山の里  
〒407-0263 韮崎市穴山町 5164  
TEL0551-25-5900  
E-mail : [sato@sip-shinwakai.jp](mailto:sato@sip-shinwakai.jp)



## 第49回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会に参加して

7月12・13日に京王プラザホテル（東京都新宿区）において、「関東地区知的障害福祉関係職員研究大会」に参加しました。大会の大テーマ『安心して堂々と生きる』には、「相模原事件を決して風化させてはならない」という強い思いが込められています。

1日目の全体会では、「この10年から我々のMISSION&PASSIONを再考する」や、当事者発表「私らしく生きる」の講演がありました。津久井やまゆり園で起きた事件を題材に、人権とは何かについて考え、「気づきの段階からが支援であり、知識や技術を詰め込むだけでは意味がない、受け止める自分の軸が大切である」ということを学びました。

2日目の分科会では、「共生社会の実現に向け、障害者支援施設の支援の在り方を考える」というテーマで虐待や暴力に纏わる講義を受けました。やまゆり園事件のような殺傷事件に繋がりにかからないような小さな暴力は日々どこでも起きているという厳然たる事実や、本当は健康な子供に産んであげたかったという自分自身を責める親が、障害についての知識不足から“躰”と称して暴力をふるうなど、暴力が行われる“とき”と“原因”を知ることこそがリスク要因を減らすことに繋がるそうです。そして、環境要因として障害者差別がある地域、年老いた家族や隔離された施設しかなく、生きて行くために依存できるものが少ないと暴力に繋がりがやすいそうです。人はたくさんの人、物に依存しなければ生きてはいけず、だからこそ、地域との繋がり、ボランティア同士を含めた支え合う社会が必要であることも学びました。

今回の研修では、両日ともにやまゆり園事件を題材として、様々な立場・視点から障害者支援について学ぶことができ、とても有意義な研修となりました。



支援員 向井 幸

## 石和健康ランドへ行ってきました！

夏期帰省（家庭訓練）が行われていた8月11・12日に、施設に残った皆で石和健康ランド（笛吹市）へ1泊旅行に行ってきました。

温泉の種類が多く、暑かった今年の夏の活動の疲れを癒すことができました。

ホテルの部屋ではカードやオセロゲームをして皆で盛り上がり、お食事も美味しいものをたくさん食べて充実した時間を過ごせリフレッシュすることが出来ました。また別の機会があれば、皆で小旅行に行ってみたいと思います。



## 流しそうめん大会



なかよし会で「流しそうめん大会」を行いました。毎年、敷地内の新鮮な竹を刈り出し、一から流し桶を作っています。

今年は台風の影響で、残念ながら屋内の食堂で実施しましたが、利用者さんそれぞれが箸を持って、流れてくるそうめんを今か今かと覗き込み、掴まえるために集中しながらも笑顔が見られました。

## 地域防災訓練

「防災の日」の翌日である9月2日に、大規模災害発生時における初動対応について市内一斉に訓練を実施し、関係機関の相互連携と住民の減災意識の高揚につなげることを目的とした「韮崎市総合防災訓練」に当施設利用者様と職員で参加しました。

地域消防団の方から、発電機や消火器の使用方を学び、実際に使ってみることで普段なかなか練習できないことを体験させて頂く貴重な1日となりました。

今回学ばせて頂いた知識を活かし、今後もしっかりと取り組みを行ってまいります。





# 土偶お面作り

# かかし祭り



約五千年前の縄文文化が華やかだった縄文中期に一番繁栄していたのが、この山梨あたりの地域だったそうです。



縄文土器や土偶がたくさん発見されていることに関心、穴山町ふれあいホールにて土偶のお面作りに参加しました。本来ならば青空の下で作る予定でしたが、この日はあいにくの天気だったため屋内で行ないました。それでも粘土から形を作る作業に利用者様はもちろんの事、職員も熱中していました。それぞれ見本を見ながら形を作り、模様や細かな形を工夫して個性豊かなお面が出来上がりました。

1ヶ月ほど乾かしてから焼き上げると言う事で、出来上がりを楽しみに待っています。

昨年度から参加を始めた韮崎市円野町主催の「かかし祭り」に今年度も参加しました。

職員から公募し決定した穴山の里の作品テーマは『オリンピック女子カーリング』でした。見学者の方々にすぐに「女子カーリング」と分かる様に「そだね〜」の看板も作りました。他地区からも同じように女子カーリングをテーマにした案山子が出品されていましたが、作品のクオリティでは穴山の里が一番だったと自負しています。

奨励賞を受賞し、地元テレビに何度も穴山の里の案山子が放映され嬉しかったです。来年は、もっと時間をかけて製作し優秀賞を目指したいと思います。



## 【活動班紹介】ほのぼの班



『ほのぼの班』は、高齢な利用者様や身体にハンディキャップを持った利用者様を中心に17名で活動しています。主な活動内容は、口腔ケア、軽体操、機能訓練です。

また、今年度から楽しみながら身体を動かせるようにとレクリエーションを取り入れ活動しています。その中で、全体での活動で不足した部分を医務と連携し、各利用者様の状態に合わせて個別にプログラムした機能訓練をルームランナー、エアロバイク等の運動器具を活用しながら行っています。

## 東社協「施設体験研修」に参加して

支援員 小野 雄太

7月10・11日に社会福祉法人南風会が運営する障害者支援施設「シャロームみなみ風」（東京都新宿区）にて、東京都社会福祉協議会が主催する『施設体験研修』に参加させて頂きました。

研修に参加するにあたり、利用者支援において、職員の方が利用者様とどの様に関わっているのかを学び、自身の資質向上と学んだ内容を今後の支援に役立てたいという目的を持って研修に臨みました。

2日間の研修の中で今後の支援に取り入れていきたいと感じた事は、日中活動と余暇活動に参加させて頂いた時の利用者様との関わり方や立ち位置です。職員さんたちは皆、笑顔を決して絶やさず優しい言葉掛けをして傾聴もされており、利用者様も笑顔で応じている姿が印象的でした。自分も「表情・言葉・傾聴」を大切にして、信頼関係が生まれるような関わり方をしていきたいと思いました。また、てんかん発作や自傷・他害などの問題のある利用者様を見守りする際は、10歩以内の立ち位置で突発的な行動があってもすぐ対応出来る様に配慮されており、立ち位置の大切さを改めて感じました。今後の支援では、立ち位置をよく考え、事故や怪我を未然に防止出来るように努めたいと思いました。

今回の施設体験研修では、改善しなければならないこと、支援で取り入れていきたいこと等、「気づき」があり自身の支援を見直すきっかけにもなる有意義な研修となり、その気づきを無駄にしないように、今後の支援活動につなげていきたいと思っています。



# 穴山の杜

特別養護老人ホーム穴山の杜  
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390  
TEL 0551-25-6100  
E-mail : [mori@sip-shinwakai.jp](mailto:mori@sip-shinwakai.jp)



大型台風 21 号が関西方面で多大な被害をもたらしました。そのニュースが続いている最中、北海道に強烈な地震が発生し、多くの死者と甚大な被害が発生したことが脳裏に焼き付いています。災害は忘れたころにやってくると言われていましたが、こう続けざまに北から南まで日本列島各地を襲ってくるとは思ってもいません。福祉施設において、施設の立地条件にかかわらず防災対策を確立することが不可欠ななっています。幸いにして当施設の位置する場所はハザードマップ上からも安全な立地条件ですが、穴山の杜では数年前から災害に対する防御システム（BCP）について検討しておりますが、さらに充実した非常時災害対応策を進めて入居者様、ご家族、職員に安心していただける施設を目指してまいります。



## 山梨県代表 老施協研究発表

エッセイライター 成島 綾・介護職 横田春香

本年 2 月 18 日に開催された、山梨県老人福祉施設協議会の研究総会で発表した内容が評価され、山梨県代表として、9 月 11～12 日と千葉で行われた関東老人福祉施設研究総会に参加しました。11 日は基調報告、特別講演、記念講演が行われ、これからの未来の介護福祉について話されていました。12 日には分科会が行われ、6 分科に分れ各施設から事例発表をしました。穴山の杜からは「最期は家で死にたい」と思いつつ、施設で亡くなられたある入居者の 2 年半に及ぶ取り組みを発表しました。穴山の杜で生活する本人の思い、家で死にたいと思う本人の思い、家での介護は様々な理由から難しい家族の思い。その両方に寄り添う難しさを、この利用者を通して実感させられました。その中でも、外泊外出で自宅で過ごす時間を作った事、本人や家族が安心して生活が送られるように関わりを持ったユニット職員や他職種の職員、この事例発表にあたり様々な協力をしてくれた職員に感謝すると共に、取りかかりから約 1 年に及ぶ長期に渡るこの事例をまとめた仕事をやり遂げた達成感で今は胸がいっぱいです。また、関東大会という貴重な場で発表が出来た事にも感謝しています。



## 名言名句から学ぶ

### 歳月人を待たず

年月は人の都合などにお構いなく、  
どんどん過ぎ去ってしまうものだ  
うかうかしているうちに一日、一月、  
一年は、あっという間に過ぎてしまう  
目標に向かって常に一生懸命努力す  
ることが大切である

## ～ 言の葉研究会 ～

第 52 回言の葉研究会 利用者作品をご紹介します！

草山にひときわ目立つ彼岸花 浅井歌壽代様

今日も何もする気になれないの  
ただ寝てるが楽でいいわ 高柳敏子様

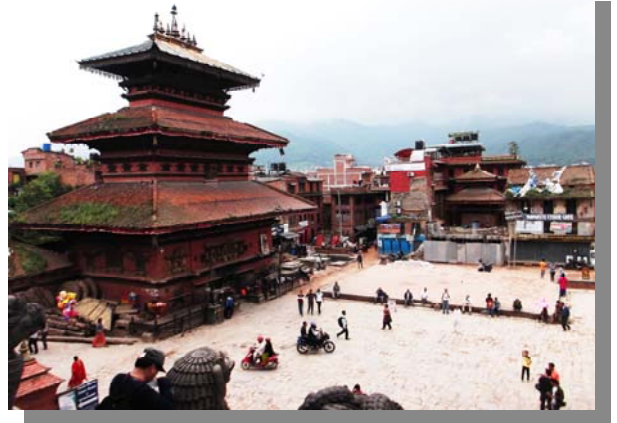
秋桜を見ているだけで幸せ  
花はいいです昔から好き 梅津知美様

姑も旦那も皆いい人で  
嫁いでからも苦労しなかった 大久保照子様

# カトマンズの旅

ケアマネージャー 小舟 由理

“エベレストを近くで見たい、若い時に映画で見たカトマンズに行きたい”との思いで、7月初旬、行ってきました。梅雨時、飛行機が飛び山が見える確率は20%に見事に的中し目的を達成。美しく清らかな印象と共にその荘厳さに感動でした。市内はバスで移動し、世界遺産である寺院、王宮を見学。レンガ造りの古都、抽象的でユーモアさえ感じる彫刻や建造物は、日本のそれとは異なり温かい愛情に満ち身近に感じるものでした。1915年の地震で崩壊し修復途中、まだ無残な姿の所と復興にも国柄が色濃く出ていました。物乞い、物売り、寝転んでいる人、民族衣装を来てレンガを積む女性と世界遺産の周りには色々な人がいます。市の中心に移ると車が渋滞し、土埃が舞い、電線が何重にも乱雑に結ばれ、軒に電信柱にと垂れ下がった景色がいたる所に見られます。更に神聖と言われる牛が路上に寝ころび、野良犬がうろろうろし、外れには猿までいました。50年前の日本と言っていた方がいましたが、この乱雑さは日本の国民性から考えると想像もつかないものです。カトマンズの人々とはというと、交通渋滞とは打って変わって、全ての人のがんびりとしていて、早足だったのは私達日本人だけだったように思います。ネパールは発展途上国とも言えない国ですが、この現実がなぜか私には魅力的に感じました。身勝手な事を言えば、このままであって欲しいとさえ思います。エベレストを仰ぎ、栄華を誇った王宮や寺院を中心に、今も宗教を重んじ、人生を達観しているような人々が住んでいる国だからでしょうか？12時間かけて着いたところは時間の流れがゆっくりとした国でした。



9月17日敬老の日お祝いメニューとして、栗赤飯・花麩すまし汁・海老や南瓜の天ぷら・煮付け・メロンが提供されました。彩りも良く、豪華な食事に笑顔が見られました。これからも元気に過ごしましょう！

祝

敬老の日

## ロバとうさぎの会



7月7、8月8日、9月12日、10月2日に菫崎市社会福祉協議会所属“ロバとうさぎの会”が来設。季節に合わせた歌や血流を良くする体操などが行われました。普段あまり顔を合わせない利用者と一緒と同じ歌を歌ったり、明るい雰囲気の中で、眠そうな方も目を覚まし、笑顔で楽しまれていました。次回も楽しみですね！



## 見事な葡萄鉢です



岩下幸夫様より、葡萄の盆栽をいただきました。デラウエア・甲斐路・巨峰の3鉢は、玄関やホールを賑やかにしてくれ、散歩に降りて来る利用者は美味しそうなお実に堪らず味見をし、来設された面会者も「立派ですね」と驚かれたりと、楽しませていただきました。毎年ありがとうございます！

## 緑のカーテン作りしました



今回は猛暑だった為、水やりをしても追いつかず、葉が小さく弱弱しい時もありましたが、それでも上へ上へと蔓を伸ばしていました。また濃い緑のがうりを付けてくれ、美味しかったです。葉っぱが作る影は優しく、緑に癒されました。

# わ〜く 穴山の里 共同生活事業所 合同便り

多機能型事業所 わ〜く穴山の里  
共同生活事業所（わ〜く穴山の里内）  
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1  
TEL：0551-25-5866  
E-mail：[work@sip-shinwakai.jp](mailto:work@sip-shinwakai.jp)



## リニューアル1周年



わ〜く穴山の里・共同生活事業所事務所のリニューアルオープンからあつという間に1年が経ちました。

それを記念して、10月1日に栗原信理事長・栗原信雄会長をはじめ法人関係者の方々もお招きして、賑やかに食事会を行いました。この日はちょうど会長のお誕生日と重なりお祝いも二倍となりました。

利用者様には1年間の頑張りを皆で称えあい、これからの1年を大切に過ごすことを約束し、職員はこの1年で何が出来たのかを振り返り、次の1年に繋がるよう気持ちも新たにリニューアルオープンと同じ場所で記念撮影を行いました。



共同生活報告会では、わ〜く穴山の里の食堂スペースを使って定期的に施設内研修会を開催しています。

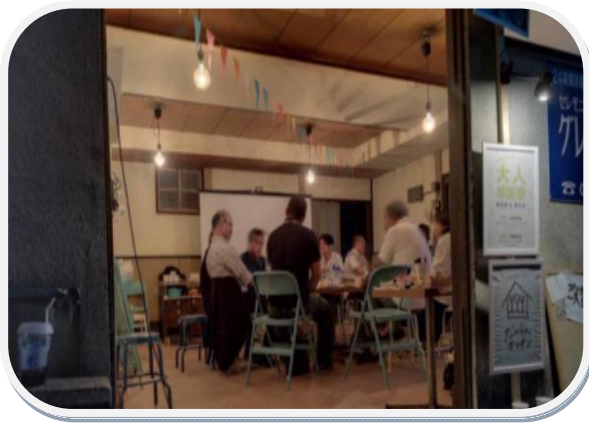
今回は、7月5日にあけの歯科の西山院長を講師にお招きして口腔ケアについてのお話をうかがいました。

せっかくの機会となりましたので、共同生活事業の世話人・職員だけではなく、法人内の他事業所の職員にも参加いただき、利用者様の支援に役立つように学ばせていただきました。

## 施設内合同研修会



## 「職場体験」報告会



今年度からNPO法人河原部社様主催でスタートした中学2年生対象の「職場体験」事業の報告会が9月23日に行われました。未来を担う若い力を応援するプロジェクト。

わ〜く穴山の里も韮崎市内にある多くの企業様と共に、『学生の皆様に何を伝え、何を知っていただけるのか』を考える学びの場となりました。

また、峡北地域障害者自立支援協議会 通所韮崎部会では商工会様にご協力いただき、韮崎市内の企業様と市内就労系の福祉事業所との間で仕事での繋がりを確立しようと働きかけています。

障がいを持つ方が地域で暮らし続けるために、わ〜く穴山の里でも何が出来るのか日々の取り組みを大切にし、事業展開を進めてまいります。



# 穴山の杜シヨート

穴山の杜 短期入所生活介護事業所  
〒407-0263 菟崎市穴山町 4410-3  
TEL : 0551-25-0800



## 『 今、あらためて思う事 』

介護士・機能訓練指導員 作地洋子

特養から短期入所事業所へ異動になり二年が経ちました。当初は新規立ち上げだった為、真っさらな状況の中、資料の全て一つ一つ施設長を中心に問題解決しながら、利用者様に満足して過ごして頂くには何が必要かを考え取り組んできました。今でもその都度一番良い解決策を考え、常に職員間で共有し、前進するよう心掛けています。

これまでの特養とは違い、利用者様が短期で入れ替わるので、その時の状況、情報をしっかり把握しなければならず、初めは戸惑い毎日が必死でした。自立されている方から重度の方と幅広く利用があります。その中でレクリエーションや機能訓練の提供ができるよう、自主的に勉強会、研修に参加して幅を広げ、実践をしています。

利用期間が短い方は一泊で帰られてしまうこともあります。短いと他の利用者様と打ち解けることも大変なのですが、その中でもどのように施設に興味を持っていただき、また来たいと思っていただくかが非常に難しい所でもあります。逆にも楽しい所でもあります。そのことが今ではやり甲斐になっています。

送迎先等で直接ご家族様の思いを知る機会も増え、その思いに添って「何が出来るか」「どうすれば喜んでいただけるか」を考えられることは、とても良かったと思います。自分自身の一日よりも利用者様の一日一日を常に大切に思い、今私が出来ることを一生懸命やっていきたいと心から思うようになりました。これからもそのことを忘れず、良いサービスが提供できるよう努力していきたいと思いをします。

## トピックス

## 祝敬老

9月15日わーく穴山の里利用者さん、18日穴山の里なかよし会の皆さんがお祝いに訪問してくれました。一緒に『ふるさと』を合唱し、『これからも元気に長生きしてください』と温かい言葉と、手作りの壁飾り、鶴亀長寿の貼り絵のプレゼントをいただきました。また17日には行事食で『お祝い御膳』を食べました。



## カレンダー作り

広告を利用して林檎の貼り絵をし、カレンダーを作成しました。



## ひまわり壁掛

色画用紙や麻紐で向日葵の壁掛けを作成しました。ハサミやのりを使って器用に花びらを組み合わせ、一足早く黄色い大輪を咲かせました！！



## おやつ作り

8月23日パフェ、9月21日に芋もちを作りました。フルーツやアイスを盛り付け、生クリームで綺麗に飾り付けました。冷たくて甘いデザートに暑さも和らぎました。芋もちは具材を小判形にして焼きました。回を重ねる毎に利用者様主体の調理となり、『次回は何かを作ろうか?何時やるの?』と楽しみになっています。



## オカリナ演奏

11月26日中田町オカリナの会の皆様が慰問にみえました。オカリナの演奏を聴きながら、『あざみの歌』『上を向いて歩こう』など一緒に歌いました。懐かしい歌や優しい音色に心が癒され、涙する利用者様もいました。



## 感謝録

(平成30年6月16日から平成30年9月15日)

～ご寄付を頂きました～ (敬称略)

ありがとうございました。感謝いたします。

木島廣子・古内保明・藤田 元・藤井立也・伊藤正大・  
岩本春雄・(株) サンカイゴ

～ご協力を頂きました～ (敬称略)

☆ボランティア

阿部光雄 (歌謡)・島津泰子・長坂泰子・島津公子・  
細窪房美・嶋津良子・森岡節子・西山千代子・堀井敬子  
(歌謡協力)・田中康子 (絵画指導)・足立悦子 (ピアノ演  
奏)・ロバとうさぎの会・千野公洋 (太鼓)・飯野祐子 (習  
字講師)・葦崎スポーツクラブ・葦崎ジュニアコーラス・  
貝瀬香鈴・山野葉菜

## 訪問録

(平成30年6月16日から平成30年9月15日)

☆教育実習 (敬称略)

◎山梨学院短期大学  
中山芹菜

◎優和福祉専門学校  
小林寛宙・相原美加・李 知宣

◎帝京学園短期大学  
・大澤百香・石井理子

◎北杜高校  
横森佳寿美・福島みゆき・守屋瑠夏

◎甲斐清和高校  
望月 楓・栗田大輝

☆体験実習 (敬称略)

◎わかば支援学校  
・廣島嘉浩

☆職場体験 (敬称略)

◎葦崎高校 ・栗澤日菜・岸根 晃  
◎葦崎東中学校 ・嶋津 裕・望月航平  
◎甲府城南中学校 ・堀井香菜子

## 穴山の里 文化祭のご案内

開催日 平成30年11月23日 金曜日

場 所 旧穴山小学校体育館

展示部門 午前11時 ～ 午後3時30分

発表部門 午後 1時 ～ 午後3時

- ・穴山の里 合唱クラブ
- ・利用者と職員による 寸劇 ～桃太郎～
- ・大正琴 ザ・キャンディーズ
- ・穴山の里 太鼓クラブ

皆様、お気軽にお越し下さい

## 穴山を花で飾ろう!

わ～く穴山の里と杜ショートの道路沿いにビ  
オラの花プランターを設置します。

10月中旬に設置して11月から12月まで楽し  
めるよう育てていきます。前の道路を通ると  
き、ちょっとだけ幸せな気持ちになっていただ  
ければ嬉しいです。



表紙・挿絵の彼岸花は千を  
超える別名を持っています。  
皆様の地域では何と呼んでい  
ますか。  
(M・O)

一方、猛烈な台風の襲来・  
地震と自然災害が続き、日  
本・世界各地で支援を必要と  
しています。信和会でも非常  
事態に対応できるように、職員  
の安否確認システムをはじめ  
め、設備、備品等整えており  
ます。自宅で想定される災害  
別の対策をおすすめします。  
災害はいつどこで起きるかわ  
からない分、日頃から《もし  
も》の話し合いをする機会を  
設けて防災意識を高めてみま  
しょう。

私は健康管理の為、何十年  
間ぶりに水泳を始めました。  
三日坊主にならないようにと  
回数券を購入し、家族を巻き  
込んでのスポーツの秋を楽し  
んでおります。

スポーツの秋・文化の秋・  
読書の秋・防災の秋、皆様ど  
のような秋をお過ごしでしょ  
うか。

編集後記